

# リニアバレー構想（骨子案） ～信州・日本の伊那谷から世界の INA Valley へ～

リニア中央新幹線整備を  
地域振興に活かす伊那谷自治体会議

## ＜リニアが伊那谷にもたらすもの＞

○リニア中央新幹線は、その超高速性により国土構造の変革をもたらす国家的見地に立ったプロジェクト。この新幹線により、三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化し、世界最大のスーパー・メガリージョンが形成され、4つの国際空港、2つの国際戦略港湾を共有し、世界から人・モノ・カネ・情報を引き付け、世界を先導。

### 《スーパー・メガリージョンの形成》



(出典) 国土のグランドデザイン2050

### 《高度な都市空間と大自然に囲まれた空間が 近接した新しいライフスタイルが実現》

○リニア長野県駅の活用により、これまで都会から短時間でのアクセスが困難だった地域への人の流れを生み出し、優れた景観や自然環境との日常的な触れ合いを可能にするなど、高度な都市空間と大自然に囲まれた空間が近接した新しいライフスタイルが実現。



○リニア中央新幹線と北陸新幹線（長野経由）、両者を結ぶ高速道路網の整備により、東日本と西日本、太平洋と日本海を結ぶ「本州中央部広域交流圏」が本県を中心に構築され、それが災害に強い国土づくり、田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出、東京一極集中からの脱却にも寄与。

《本州中央部広域交流圏のイメージ》



(出典) 長野県新総合交通ビジョン

## ＜「リニアバレー構想」がめざす姿＞

○平成39年、リニア中央新幹線の長野県駅が伊那「谷（バレー）」に設置される。この地域が、リニアを最大限に活用して地域発展の原動力とすることで、「リニア」で身近になる大都市や世界の活力を引き寄せて、豊かな自然環境の中で地域も人々も輝く「リニアバレー」を実現する。

### ◇国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点

～世界とつながる～

### ◇巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点

～日本を支える～

### ◇高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」

～ここで豊かに暮らす～

### ◇世界から人を呼び込む感動フィールド

～ここでふれあう～

## 【国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点】 ～世界とつながる～

○首都圏と中京圏との中間に位置することに加え、リニア中央新幹線によりアジアや欧米諸国の主要都市への玄関口である東京国際空港や中部国際空港へのアクセスが1時間程度となり、特に東京国際空港へは東京近郊感覚でアクセスが可能となることや、恵まれた自然環境と高い精密加工技術を有する企業集積があることなどの特徴を踏まえ、外資系企業やグローバル経済圏で活動する企業の中核機能の受け皿をめざすとともに、既存の産業集積を活かした次世代産業の創出をめざす。

### 《めざす姿を実現するために》

- ・国際空港への近接性を活かし、外資系企業やグローバル経済圏で活動する企業の本社、研究開発機能などの中核機能の立地を促進し、高度な都市生活と大自然に囲まれた環境が近接した新しい企業集積をめざす。
- ・最先端産業や地場産業の支援機能、大学連携組織、高等教育機関などを結集させることにより、産・学・官・地域の人的交流の場、ナレッジスクエアを形成し「知」と「産業」の集積を推進する。
- ・国際戦略総合特区「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の指定を活かしつつ、アジア最大級の航空宇宙産業集積地である東海地域と伊那谷とのアクセス向上により、本県の強みである微細精密加工技術を活用した航空宇宙産業クラスターの形成を促進する。
- ・健康・医療・介護分野への企業の新規参入を促進するとともに、県看護大学や地域の医療機関等との連携をすすめることにより、健康長寿社会を支える産業集積（メディカルバイオクラスター）をめざす。

## 【巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点】

### ～日本を支える～

- 首都直下地震の発生リスクが高まる中で、首都圏と中京圏の中間に位置し、かつ大都市圏との移動時間が短いという地の利を活かして、都市機能や政府系研究機関の移転、企業の中核機能のバックアップ施設や災害発生時の食料供給・医療提供の拠点の受け皿などにより、日本を支える役割をめざす。
- 農産物の付加価値を高めるアグリビジネスの推進や森林資源の活用など、伊那谷の多様な資源を活用することにより、食料やエネルギーなどの新しい供給拠点をめざす。

### 《めざす姿を実現するために》

- ・優良な農業環境や豊富な水資源、圧倒的に少ない自然災害など、高いポテンシャルを有する伊那谷を、首都直下地震発生時に日本を支え、リスク分散を図る地域として強くアピールし、研究機関や企業の本社機能など都市機能の移転を促進する。
- ・巨大災害発生により首都圏にある本社機能が被災しても円滑に事業活動が継続できるよう、企業経営者の居住地を整備する。
- ・地域医療の体制・連携を更に充実させること等により、発災時の後方医療支援拠点、災害活動拠点としての機能整備を図る。
- ・緊急輸送ルート確保のための道路整備や橋梁の耐震補強、土砂災害対策など、圏域をあげての防災力向上に取り組む。
- ・伊那谷に位置する大学等の知的財産を活用した産学官連携による、農畜産業、食品産業及び関連産業を活性化するための取組（アグライノベーション）や農産物の新たなブランド化、伊那谷の特産品を活かした6次産業化の推進など、付加価値の高いアグリビジネスを推進する。
- ・ヒノキ、アカマツ、カラマツなど伊那谷の多様な樹種を活用できるよう、森林整備の担い手の確保・育成を図るとともに、移住者等への木造住宅の建設促進や木質バイオマスの利活用推進などにより、林業振興をすすめる。

## 【高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」】 ～ここで豊かに暮らす～

- 「高度な都市環境の中で働き、大自然に囲まれた環境の中で暮らす」、「平日は大都市圏に住んでいても、週末や一定期間に限って豊かな自然環境の中で伝統文化に触れて暮らす」など、新しいライフスタイルを提供する「対流促進圏域」を形成する。

### 《めざす姿を実現するために》

#### 〔移住定住・二地域居住の促進〕

- ・リニアを活用し、伊那谷を「思考活動・憩い・住居の場」と位置付けた上で、「東京・名古屋への通勤ゾーン」「二地域居住ゾーン」など、様々な居住ニーズに応じた圏域内のゾーンを設定する。
- ・リニア長野県駅へのアクセス環境に応じて、分譲地の整備や空き家の改修など、定住や二地域居住に必要な居住環境の整備をすすめるとともに、UJIターン希望者へのきめ細やかな情報提供、都会で生まれ育った人たちに対するクライנגルテン等でのお試し居住など、定住につながる取組の充実を図る。

#### [豊かに暮らすための地域づくり]

- ・我が国を代表する伊那谷の伝統文化の継承、特色ある食文化を背景とした健康長寿に向けた取組、子育てしやすい教育環境の整備、地域子どもたちへの郷土愛の醸成など、様々な視点から伊那谷に住む人が豊かに暮らすための地域づくりに取り組み、新たな文化の創造につなげていく。

#### [魅力ある自然環境の保全と景観の形成]

- ・アルプスや里山の山並み、段丘や田園風景など、伊那谷の美しく雄大な自然環境を守り、地域の宝として育て活かしていく。
- ・恵まれた自然や先人により育まれた歴史・文化が織りなす町並みなど、伊那谷地域が誇る美しく豊かな景観を守るとともに、リニア整備を契機として新たに創り出される景観についても魅力あるものとなるよう、調和の取れた広域的な景観形成をすすめる。

### 【世界から人を呼び込む感動フィールド】 ～ここでふれあう～

○南アルプス、中央アルプスといった山岳高原や多彩な伝統文化を活かして、美しい信州の原風景や文化にふれあうなど、インバウンドも含めた広域観光の推進により交流人口が拡大する感動のフィールドをめざす。

#### 《めざす姿を実現するために》

##### [広域観光ルートづくり]

- ・木曽路や他の観光地を結んだ旅の提案や北陸新幹線（長野経由）等との連携など、広域的な信州の旅を満喫できるよう、日本アルプスの玄関口としての役割が期待されるリニア長野県駅を拠点とした多様な観光ルートづくりに取り組む。

##### [体験型観光の推進]

- ・農業体験や豊かな里山資源を活用した山菜・きのこ狩り体験、田舎暮らし体験、山岳登山をはじめとするアウトドアスポーツなど、魅力ある多様な体験ツーリズムを確立する。
- ・健康志向の高まりの中で、豊かな自然環境、温泉、健康にいい農産物を活かし、健康に関心を持つ多くの方に訪れていただくよう、ヘルスツーリズムを推進する。
- ・全国に先駆けて実施した、生活文化を活かした体験修学旅行を更に発展させ、フィールドスタディの誘致を促進する。

##### [外国人旅行者の誘客]

- ・伊那谷の伝統・文化を活かした観光資源を磨き上げ、観光地や宿泊施設の魅力向上、滞在プログラムづくりなど、外国人旅行者にとって魅力ある観光地の形成に地域をあげて取り組む。
- ・外国人旅行者が安心して快適に移動・滞在することができるよう、案内標識の多言語化やWi-Fi環境の整備をすすめる。

##### [豊かな自然と実績を活かした国際交流]

- ・独立行政法人国際協力機構・青年海外協力隊訓練所を拠点としたグローバル人材の育成や在日大使館との連携をすすめるとともに、国の内外から様々な会議を誘致するなど、豊かな自然環境や伝統文化を活かした国際交流を推進する。



## ＜構想実現のための基盤整備＞

- リニアバレー構想の実現に向け、長野県の南の玄関口となるリニア長野県駅が多くの  
人々にとって利用しやすい駅とするため、県内外の広範な地域からの多様で良好なア  
クセスを確保する。
- こうした整備をすすめることで、伊那谷の人口の８５％が東京圏９０分圏域、およ  
そ６０％が名古屋６０分圏域となるようにする。

## 《具体的な取組》

- ・観光情報の一元化・発信に向けた広域的な連携をすすめるとともに、交通案内やパンフレッ  
ト等の多元化など、国内外の来訪者にわかりやすい情報発信に取り組む。
- ・三遠南信自動車道等の整備や高速道路とリニア長野県駅との直結、スマートインターチェン  
ジの設置など、リニア長野県駅と高速道路との連携を強化するとともに、拠点間を円滑に結  
ぶ幹線道路を整備するなど、圏域内の広域道路ネットワークを構築する。
- ・リニア長野県駅からの乗換を円滑にすすめるため、駅周辺の広場や道路の整備をすすめると  
ともに、圏域内の公共交通の路線再構築など、住民の利便性向上に向けた取組をすすめる。
- ・ＪＲ飯田線への乗換新駅設置の検討や、リニアのダイヤに合わせた在来線運行体系の整備等  
に係る調整など、リニア長野県駅とＪＲ飯田線との連携に向けた取組をすすめる。

《広域ネットワークのイメージ図》

